第３回小城市総合計画審議会　議事要旨

日　時　　令和６年８月５日（月）９時 30 分～10 時 53 分
場　所　　小城市役所　西館２階　大会議室 AB

- 出席委員 ：　五十嵐会長、吉岡副会長、林委員、御厨委員、下村委員、夘野木委員、井手委員、中島委員、池上委員、藤井委員、横尾委員、森川委員、徳丸委員、圓城寺委員
  （欠席委員 ： 木原委員、秋丸委員、江頭委員）
- 事 務 局 ：　池田総務部長
  （企画政策課）大坪課長、田中副課長、森係長、久保田主事
- 傍 聴 者 ：　１名

１．開　会

２．議　事

（１）第３次小城市総合計画基本構想案について

（委員Ａ）

第２回審議会での意見を踏まえて、「高齢者」や「福祉」といったところががもう少し強く出てくるかと思っていたが、いまいち反映されていないように感じる。

（事務局）

目指すまちのすがた、将来像は、全政策・施策に通ずる表現であることを前提として整理している。具体的には、案３の「全世代」というところで、こどもから大人まで、全ての市民にあてはまるような視点を一つ表現しているが、福祉政策の位置づけについては、今後政策や施策の検討を進めるなかで議論していきたい。

（会長）

事務局の説明に補足する形で発言させてもらうと、仮に将来像、キャッチフレーズに何か象徴的なことを掲げてしまうと、そこを重視していることは伝わるが、逆にそれ以外の分野を象徴する表現とは離れてしまうといった問題もある。少子高齢化、人口減少社会を基本的な背景として、当然、高齢者を含む福祉の充実は重要です。市として福祉の分野を重点的な戦略と位置付けることは可能だが、何を重点的な戦略に持ってくるかというのはこれからの議論であり、それを考える上で、ここでいう「全世代が活躍する」ということを盛り込んで進めていくという考え方だと思う。今いただいた福祉についてのご意見、皆さんの共通認識として置いておくという前提で議論を進めさせていただきたい。

（委員Ｂ）

目指すまちのすがたが５案から３案に集約されたことで、案５の「自然環境」や「住

みやすいまち」というところの表現が消えたような形になっているが、住みやすいまちであることで、好きや愛着を持つというところに繋がるという風にも考えられるので、案1に案5の要素を加え、「自慢したくなる住みやすいまち小城市」と整理してはどうか。

（事務局）

「自然環境」のキーワードは市民憲章と重複する部分もあったため、同じ表現を避けるということで事務局案として絞らせていただいた。この点については、頂いたご意見を踏まえ、整理していきたい。

（会長）

文章そのままに、キャッチフレーズのほうで反映するのか、案1に「快適」「住みやすさ」といったところを加える形でまとめるのかについては、引き続き検討していただきたい。

（委員C）

当初の案3、案4の「活力」というところについても、市民憲章と重複する部分で表現としてはなくなっているが、集約後の3案を見たときに単純にインパクトに欠ける部分がある。やはり、その地に生活しやすい魅力があるとか、何か活力があるようなところがないと、人は住みたい、暮らしたいといった感情にはならない。それを好きや誇りにつなげていくためには、何か地域の活力のようなことがイメージできるような表現が一工夫あればよいのでないかと感じる。

（事務局）

「活力」というところについては、市民憲章と重複する部分というところでそこに溶け込む形で整理しているが、まちのエネルギー、原動力といった源泉につながる部分でもあるため、頂いたご意見を参考にさせていただきながら、言葉の選び方を工夫することで表現できればと思う。

（会長）

捉え方によっては、集約後の案3「全世代が主役で活躍できる」が「活力」につながるといった見方もできる。「活躍」という言葉を使うのか、「活力」という言葉を使うのか、表現上も問題もあろうかと思うが、参考にしていただければと思う。

（委員D）

「笑顔」といったキーワードについても、集約後の3案では消えている。言葉の中で視覚で訴える部分もあるため、「笑顔」というキーワードは一つ大事にしていただきたい。また、集約後の案3「全世代が主役」というのは半ば当たり前のことのようにも捉えられるため、「全世代が笑顔」で活躍できるという方が、市民にはより訴えかけやすいのではないかと感じる。

（会長）

確かに「主役」と位置付けてしまうと、「主役」という言葉の意味が強すぎてかえって誤解を呼ぶのではないかというところも危惧される。さらに言えば、「全世代」という考え方も要は世代論であり、全ての市民を前提にすると、世代だけではなくて性別差、あるいは障がい者、外国人も含む様々な市民が当然いるわけで、世代と言葉を限定してしまうと、市民全員がということとは少しずれてしまうようなリスクもある。

（事務局）
「笑顔」というキーワードは第２次総合計画でもキャッチフレーズに入っており、市民にとってイメージしやすいキーワードであると感じており、表現については、市民のみなさんの印象に残るというところも意識しながら考えていきたい。また、「全世代」というところについては、誰一人残すことなく、市民みんながという想いがこの言葉の中には詰まっているため、その言葉の選び方についても頂いたご意見を参考に調整を行っていきたい。
（委員 C）
「全世代」というところについては、その上にある「こどもから大人まで」と重なる部分がある。「こどもから大人まで全世代」という表現が間違いではないが、小城市においても外国人の方が増えているなかで、地域共生社会というところを意識すると、外国人や障がい者といった枠組みを超え、そこに多様性の問題なども踏まえた表現であるべきではないかと感じたところである。
（会長）
これまで、案１に「快適さ」や「住みやすさ」といった言葉を加えるという修正案、案３の「全世代」や「主役」という表現を変えるような修正案があげられたが、案２に対する意見として何かあるか。
（委員 E）
関係人口という視点からみると、小城市の特徴として、留学生との国際交流といったことを含めて、案３に「つながり」という言葉を入れることが可能ではないかと感じた。それと福祉と関連するところでもあるが、「主役」という表現が少し引っかかる。主体性を求めるというところも一理あるが、一方で、「大切にされる」「尊重される」といった表現もあるのではないか。
（会長）
これまでの意見を集約すると、案３に案２の「交流」というキーワードを加えて、多くの市民がつながり、交流し、笑顔で、支え合う、尊重し合う、そういったニュアンスで整理し、さらには活躍、活力あるまちというような方向性に一つ集約できないか。
（委員 C）
案２については、「好循環」の意味するところが伝わりにくい。人と人のつながりを意味したところでの表現であることを理解した上で、互助の意識が低下してきているなかで、最終的にまちのために何かというところに繋げていけるのかというところに直結できない部分がある。何かそれがイメージできるようなキーワードがもう少し入ればよいのではないかと思う。
（会長）
これまでの意見を集約すると、案１の「好き」や「誇り」を大事にしながらという方向性、そして案３の世代を越えて、「多様性」ということを前提にした「全ての市民が笑顔で活躍できる」といった２つの方向性に集約できる。案２については、人と人との交流つまりは「協働」にあたるところであり、案３の「活躍」「活力」の中にキーワードを込めるような形で集約できないか。現段階ではこの３案のうち１つにある程度絞った上で今後の具体的な政策、施策の検討の方に進みたいと思うがいかがか。

（委員 A）
案 2 の人と人とのつながり、交流というところは、小城市の魅力の一つであり、他にはない小城市の強みであると感じているところである。どちらかと言えば、案 3 の「こどもから大人まで全世代が主役」というところは、前提として案 1、2 に含まれるという風にも捉えられるため、案 1、2 を進めていくことこそが大事なことではないかと感じる。
（委員 F）
「主役」という言葉は捉え方によっては強く感じられるかもしれないが、一方で、協働の視点からいうと、一人ひとりの主体性や発言というものがまちをつくっていくということの重要性をここで表現するためにも、個人的には残しておくべきではないかと思う。
（委員 B）
案 3 の「こどもから大人まで」の「大人」という表現が、生産年齢人口でいうところの 65 歳までを指しているようにも感じられる。「こどもから大人、高齢者まで」と表現するのが適切ではないか。
（委員 C）
案 2 の「交流」については、国際交流、地域交流、協働をベースとした捉え方が前提にあると思うが、そこに「支え合う」という言葉が入ることで福祉・互助に変わる視点も見えてくるのではないか。
（会長）
皆さんの意見をお聞きして、一つの案として、案 3 を「全ての市民一人一人が支え合い 笑顔で活躍できる 快適なまち小城市」という形にまとめられるような気がするが、いかがか。
（委員 F）
人と人との「つながり」の要素が抜けている。
（会長）
個人的には「市民一人一人」という日本語表現に多少違和感がある。「一人一人」という表現は「市民」にまとめる形で、「全ての市民がつながり支え合い 笑顔で活躍できる 快適なまち小城市」とするのはいかがか。
（委員 A）
「一人一人」の表現については、数量的な意味合いではなく各人を示す言葉として「一人ひとり」と表現すべきではないか。また、「市民」は前提として当然のことで「小城市」という言葉に含まれるという見方をすると、あえて表記する必要があるのかと思う。
（事務局）
補足として、今回総合計画を考える上では関係人口の視点も大事にしていきたいと考えており、「全ての市民」というワードを「一人ひとり」と置き換えることで、市内在住の方のみならず、市外から通勤・通学等で小城市に関わりのある方を含めることができるのではないかと感じている。

（会長）
それでは、これまでの意見を集約し、現時点では３案を案３の方向に集約する形で「一人ひとりがつながり支え合い 笑顔で活躍できる 快適なまち 小城市」を将来像の案としてまとめたいと思う。細かい表現については、大人からこどもが読んでパッとイメージしやすい表現であるべきというところからも、皆さんのご趣旨ご意見はある程度集約されているという前提で、日本語表現については今後もう少し検討する方向ということでご理解いただきたい。

・政策体系イメージに関する意見
（委員 A）
産業振興に関わる政策の部分で、何か経済基盤を活性化させるような小城市のブランド、戦略となるようなキーワードがなくてよいか。
（委員 G）
序論には含まれているが、SDGｓやカーボンニュートラルといった今後世界が目指すべきところに対して、小城市としてどのように取り組んでいくのかといったところが、政策・施策といった実際の取り組みの部分にも入っておくべきではないか。
（会長）
小城市は、環境分野において、他市と比較しても先導的な取り組みを行っているため、その辺のことはもう少し強くアピールしてよいのではないか。カーボンニュートラルは極めて重要な視点であり、それを産業振興につなげるということが重要で循環経済（サーキュラーエコノミー）みたいなものも、政策の産業の中にキーワードとしては必要だろうと思う。
（委員 F）
人権的な要素は全ての分野・施策に通ずる重要な要素であるが、どこにも含まれていない。施策の中に含まれるのか、横断的視点の中に含まれるのか。
（事務局）
お示しの政策体系については、将来像を考えるにあたってイメージがしやすいように大枠として表現しているもので、現段階では全ての項目を出し切れていないため、今後、施策等の議論をする中でまたご協議をお願いしたい。
（会長）
この場では、これまでの男女共同参画といった視点に踏まえ、子どもの人権、多様性を重んじるようなテーマについても位置づけを行ってくということで確認をさせていただきたい。

３．その他
次回、第４回審議会は、SAGA2024 国民スポーツ大会終了後の 11 月頃の開催を予定。

４．閉会

【配布資料】

資料１　第２回総合計画審議会での意見一覧

資料２　第３次小城市総合計画基本構想案について